

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質				評価点	重み係数	全体
Q1 室内環境						3.6
1 音環境				3.4	0.15	3.3
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	—
1.2 遮音		—		4.0	0.40	—
1 開口部遮音性能		T=2		5.0	0.30	—
2 界壁遮音性能		—		3.0	0.30	—
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		LR-45		5.0	0.20	—
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		3.0	0.20	—
1.3 吸音		—		3.0	0.20	—
2 温熱環境				2.0	0.35	2.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	—
1 室温		—		3.0	0.60	—
2 外皮性能		—		3.0	0.40	—
3 ゾーン別制御性		—		—	—	—
2.2 湿度制御		—		1.0	0.20	—
2.3 空調方式		—		1.0	0.30	—
3 光・視環境				4.1	0.25	4.1
3.1 屋光利用				4.2	0.30	—
1 屋光率		屋光率:U =3.74%		5.0	0.60	—
2 方位別開口		—		—	—	—
3 屋光利用設備		—		3.0	0.40	—
3.2 グレア対策				5.0	0.30	—
1 屋光制御		ブラインド、庇		5.0	1.00	—
3.3 照度		照度:605lx		4.0	0.15	—
3.4 照明制御		—		3.0	0.25	—
4 空気質環境				4.6	0.25	4.6
4.1 発生源対策				5.0	0.50	—
1 化学汚染物質		床・壁・天井には、ほぼ全面的にF☆☆☆☆の材料を使用している。		5.0	1.00	—
4.2 換気				3.6	0.30	—
1 換気量		建築基準法の換気量:860m³/h、設計換気量:1100m³/h		4.0	0.33	—
2 自然換気性能		開閉可能な窓面積率:8.8%		4.0	0.33	—
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.33	—
4.3 運用管理				5.0	0.20	—
1 CO₂の監視		—		—	—	—
2 喫煙の制御		全校禁煙		5.0	1.00	—
Q2 サービス性能				—	0.30	3.3
1 機能性				3.7	0.40	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	—
1 広さ・収納性		—		—	—	—
2 高度情報通信設備対応		—		—	—	—
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	—
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	—
1 広さ感・景観		—		3.0	0.50	—
2 リフレッシュスペース		—		—	—	—
3 内装計画		建築全体のコンセプトを反映した内装計画		5.0	0.50	1.0
1.3 維持管理				4.5	0.30	—
1 維持管理に配慮した設計		ビニル床シート、壁掛け式の便器等		5.0	0.50	—
2 維持管理用機能の確保		十分な管理倉庫、清掃用流し等を設置		4.0	0.50	—
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	—
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	—
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	—
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	—
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	—
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	—
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニル床シート、壁:複層仕上塗材相当、天井:ボード類		5.0	0.10	—
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		SUSやガルバニウムダクトを採用		5.0	0.10	—
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		冷媒管:難燃性断熱材被覆銅管、給水管:硬質塩化ビニル管		4.0	0.20	—
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	—
2.4 信頼性				3.2	0.20	—
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	—
2 給排水・衛生設備		—		3.0	0.20	—
3 電気設備		—		3.0	0.20	—
4 機械・配管支持方法		電気設備・防災設備:A、それ以外:B		4.0	0.20	—
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	—

3	対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
	3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	-	3.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.18	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
	1	生物環境の保全と創出	敷地周辺の生物環境の立地特性の把握・計画方針の設定	4.0	0.30	-	-	4.0
	2	まちなみ・景観への配慮	周辺の建築物群のスカイラインの配慮を意識	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	緑化計画、主たる建築設備はほとんどGL+10m以上の位置に設置	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.82	4.8	0.20	-	-	4.8
2	自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		-	2.8	0.50	-	-	2.8
	集合住宅以外の評価			2.8	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.6
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水器具の割合:84%	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
	2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
	2.1	材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ソーラトン、フロアリューム、OAフロア	5.0	0.20	-	-	
2	2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	OAフロア、間仕切壁下地材にLGSを採用	5.0	0.20	-	-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	塗膜防水材、塗料、塗り床材	4.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	-	
3	2	発泡剤(断熱材等)	押出ポリスチレンフォーム	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
	2.1	大気汚染防止	RUXC-SE5001W(グレードAA)	4.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	雨水貯留とレインガーデンで388.3㎡確保	4.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場や駐車場を確保している	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	-	3.0	0.60	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	3.0	0.20	-	-	
	3	日照障害の抑制	-	3.0	0.20	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明は行っていない	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	10.0		○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	8.0		-	○	○	-	-	○	○	-	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	-	○	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-								
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	2.0	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	1.0	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	12.0		2.0	2.0	1.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	-	2.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	1.0	-	3.0	3.0	-	-	1.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	-	1.0							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	-		-	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		1.0	1.0											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)			-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	3.7%				
自然換気有効開口面積率	8.8%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	-	VA/㎡						
天井高	2.7	m						
リフレッシュスペース	-	レストスペース	-					
想定耐用年数	0	年						
想定必要間隔	15	年						
想定必要間隔	20	年						
想定必要間隔	0	年						
階高	3.6	m						
壁長さ比率	18.0%							
床荷重	-	N/m2						

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数		37%		建物緑化指数		0%	
空地率	66%	水平投影面積率	13%	地表面对策面積率	30%	舗装面積率	54%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.82	断熱等性能等級	対象外 相当			
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	-	採光を満たす住戸数	0.0%	
		通風を満たす教室数	-	通風を満たす住戸数	0.0%	
		太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池 .0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	0.63	無	0.63	オフサイト再エネ有	-
一次エネルギー削減率	再エネ有		無			-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%			
特定調達品目	-	エコマーク商品	フロアリウム等 自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%			
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3	
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		174% 隣棟間隔指標Rw 2.87									
地表面对策面積率		50.0%		屋根面对策面積率		0.0%		外壁面对策面積率		0.0%	
見付面積Sb		1,007㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		97.693 m		基準高さHb		5.92 m	
緑地	647㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡		㎡